今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

KAWASAKI CITY

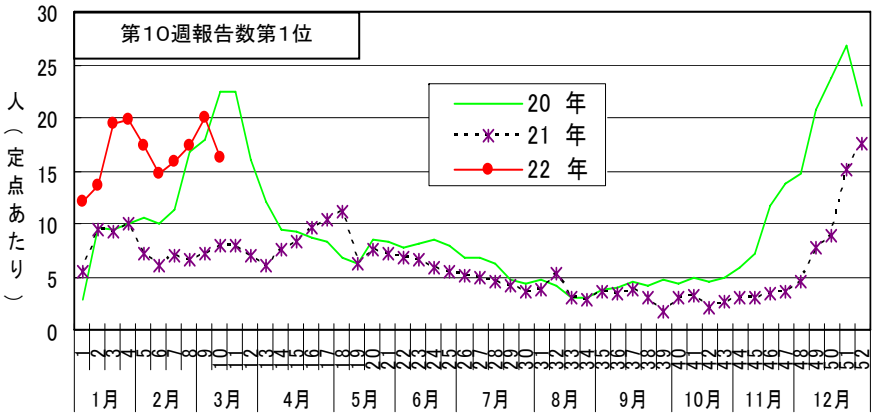
平成２２年３月８日（月）～３月１４日（日）〔平成２２年第１０週〕の感染症発生状況

第１０週で報告数の多かった疾病は、１）感染性胃腸炎　２）水痘　３）Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎となっています。

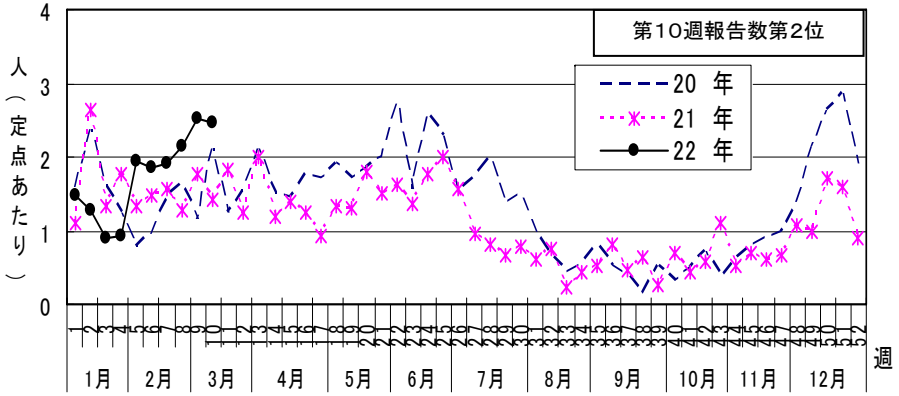
感染性胃腸炎が定点あたり１６．２８人と患者報告数は減少しましたが、区別では多摩区が定点当たり２９．２０人と警報基準値の定点あたり２０人を超えています。

インフルエンザは、定点あたり０．５７人と７週連続で報告数が減少し、流行の目安である「定点あたり１人」を下回りました。

感染性胃腸炎発生状況（3年間）



水痘発生状況（3年間）



時期はずれのRSウイルス感染症！！

ＲＳウイルス感染症とは、毎年秋から冬になると流行する代表的な呼吸器感染症で、いわゆる“かぜ”の原因ウイルスの一つです。ほとんどの乳幼児が生後１年以内にこのウイルスに感染します。急速に呼吸困難に進行する場合がありますので、単なる“かぜ”とあなどらないことが大切です。

ＲＳウイルスは例年１０月から１２月を中心に流行しますが、今シーズンは流行が遅れています（グラフ参照）。今シーズンは年明け後も患者報告数が多くあるため、今後の発生動向に注意が必要です。

主な症状は？

発熱、鼻汁、咳などの上気道炎症状が数日続き、軽症の場合はこのまま治っていきますが、そのうち１０～４０％の乳幼児に気管支炎や肺炎の兆候が見られ、細気管支炎による喘鳴（呼吸時に「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という音がする）が特徴的です。１歳未満、特に6か月未満の乳児が感染すると呼吸困難などの重篤な呼吸器疾患を引き起こしますので注意が必要です。

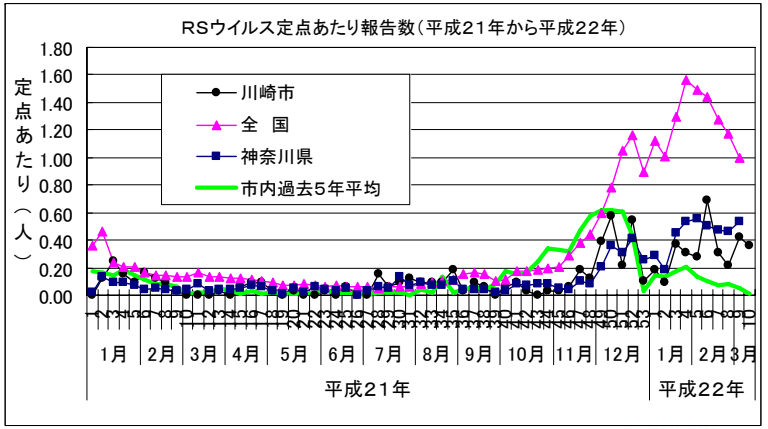
主な感染対策

潜伏期間は２～７日（通常は４～５日）で、症状は７～１２日程度続きます。その後もウイルスを排泄することがあります。

主な感染経路としては咳・鼻水などの飛沫とそれにより汚染された手指や物品を介した接触です。

１歳未満の乳児がこの病気にかかった場合は、速やかに医療機関を受診し、安静にして、十分な水分と休養を与えましょう。十分に休んで自宅静養することが必要です。

RSウイルス定点あたり報告数（平成21年から平成22年）



～気をつけたいこと～

手指からの感染を防ぐため手洗いを心がけましょう。

流行期に乳幼児を連れて外出する際には人ごみを避けるなどの注意をしましょう。

感染予防はやっぱり手洗い！

発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）